



ブータン視察 2018 報告書



催行概要

目的：

- ご寄付がワクチンとして子どもたちに届いている現状を支援者様に実際に見ていただき、支援者様との関係を強化すること
- 支援国の国土、自然、生活、経済の状況をワクチン接種事情の背景として情報収集し、理解すること

期間：2018年5月19日(土)～5月26日(土)

場所：ブータン王国（ティンプー市内、八県、パロ県）

参加支援者様：3名

キャップの貯金箱推進ネットワーク	湯川 千春	
燦 福祉作業所 天成舎	石原 久子	
日本リユースシステム	今野 優子	（企業名五十音順）

JCV 職員：2名

伊藤 光子（事務局長）
清水 大輔

現地ガイド：ダワさん

協力

UNICEF ブータン事務所

Beate Dastel Deputy Representative
Dr. Vandana Joshi - Health & Nutrition Specialist
Dr. Chandralal Mongar - Health & Nutrition Officer
Phuntsho Choden - Communication Officer

保健省

Dr. Pandup Tshering – Director General, Department of Medical Services
Tashi Penjore - Chief Engineer, Bio-Medical Engineering Division

八県

Kinzang Dorji - 県知事

ブータン保健信託基金（Bhutan Health Trust Fund）

Sonam Phuntsho - Director

JICA

山田 浩司 - 所長

新枝 大輔 - 保健担当アドバイザー

スケジュール

【1日目：2018年5月19日（土）】

時間	活動内容
22:20	羽田空港集合

【2日目：2018年5月20日（日）】

時間	活動内容
0:20	東京（成田空港）発（✈ TG661／タイ国際航空）
4:20	バンコク（スワンナプーム国際空港）着
6:00	バンコク（スワンナプーム国際空港）発 （✈ B3 701／ブータン・エアラインズ）
8:00	パロ（パロ空港）着
9:00	ホテルにチェックイン（Spirit of Bhutan Resort）
14:00 - 17:30	パロ市内を視察
17:30 - 19:00	夕食
19:30	ホテル着



▼ 日本出発・パロ国際空港到着

- 羽田空港で、弼持理事長の見送りを受け、バンコク経由、ブータンのパロ空港に到着したのは、日曜の朝8時。UNICEF のチャンドランさん、プントさん、ガイドのダナさんが出迎え。歓迎の白い布を皆の首に掛けてくれた。
- 2 台のランドクルーザーでホテルへ。空気が澄んでいて太陽が直接照り注ぐ。暑いくらいの気候で、寒いと言われていたブータンのイメージとは違う。

▼ パロ市内視察

- 高地ブータンに慣れるため、今日は標高 2300m のパロでゆっくり休む。午後からパロ市内視察。周囲を山々に囲まれ、市内は壁を細かく彩色した伝統的なブータン建築の中を、民族衣装を着た人々が行き交う。



【3 日目：2018 年 5 月 21 日（月）】

時間	活動内容
	朝食（Spirit of Bhutan Resort）、チェックアウト
8:30 - 11:30	八県へ移動
11:30 - 12:30	八県病院を訪問 ワクチン接種など母子保健サービスを視察
12:10 - 13:40	Katsho 中学校を訪問 UNICEF 支援保健衛生プログラムを視察
13:50 - 14:30	昼食

14:45 - 15:30	八県知事を表敬訪問
	ホテルにチェックイン（Risum Resort）、夕食



▼ ハ（HAA）県へ移動

- パロから八県への移動は、山を幾つか越えて行くこととなり、途中、標高 3988m の山頂で一休み。高度のため空気がひんやりと寒く、強風にはためく大量の色あせた経文旗が独特の雰囲気醸し出している。

▼ 八県病院を訪問

- UNICEF ブータン事務所からの事前連絡では、保健所視察となっていたが、2 週間前に引越し八県初めての病院として開設されたとのこと。我々が最初の公式訪問とのことで、大歓迎された。医院長より、医師 4 人、20 床など病院の説明の後、J C V からの支援のおかげで、感染症に罹る子どもの数が減少している。今後とも継続して支援をして頂きたいとの発言。J C V チームからも支援者各自から支援の取組みを説明。
- その後、女医の先生の案内でお父さんに連れられた 3 ヶ月半の男の子の予防接種を視察。予防接種室の奥に置いてある J C V からの支援の冷蔵庫を確認。温度管理をしっかりといて、ワクチンが無駄になることがない様に努めているとの説明。





▼ Katsho 中学校を訪問

- 中学校に着くと、ちょうどお昼休みで、子どもたちが庭でお母さんや家族と一緒にランチを食べていた。校庭で遊んでいる子どもたちが元気に近寄って来て、民族衣装のユニフォームで笑顔いっぱい子どもたちの写真が撮れた。
- UNICEF の水と衛生プログラムで設置された手洗い場所や保健室を視察。保健担当の女性の先生から、生徒各自が持参の石鹸で手洗いの習慣を育てる。貧血症が大きな問題で、全生徒に鉄錠剤を毎週火曜日に飲ませることで、少しずつ改善されているとのことのお話を伺う。

▼ 八咫知事を表敬訪問

- 知事公舎に入る前にチャンドランさん、ガイドのダナさんが慌てて白い布を肩にかけて正装になる。お寺や政府のオフィスに入る際は正装とのこと。
- 知事から、ブータンと日本の関係は大変友好的で、八咫は日本から多くの支援を受けている。JCV のワクチン支援の他、観光開発プロジェクトや先に訪問した Katsho 中学に派遣されているスポーツの先生（JOCV）など、心から感謝をする。今後とも、ワクチン支援を継続して頂きたいとの発言。



【4 日目： 2018 年 5 月 22 日（火）】

時間	活動内容
	朝食、チェックアウト（Risum Resort）
9:00 - 10:10	パロ県へ移動
10:10 - 11:15	Bitekha 保健所を訪問 ワクチン接種など母子保健サービスを視察
11:20 - 13:45	Bitekha 中学校を訪問、昼食
13:45 -14:30	移動
14:30 -15:00	Wanaka 幼稚園を訪問

15:00 -16:30	ティンブーへ移動
	ホテルにチェックイン (Osel Hotel)、夕食



▼ Bitekha 保健所を訪問

- ブータン国内に 210 あるこの様な保健所は、近隣地域へ基礎的医療を提供し、医師は不在で、ここも 3 人の看護師でやっている。当日は 1 人が出張サービス中とのことで、2 人で患者対応とワクチン接種で大忙しだった。1 日 40 人～50 人に対応するとのこと。JCV 支援の BCG 予防接種の様子を視察した後、JCV 支援の冷蔵庫を確認。温度管理をしっかりと、無駄がない様に努めているとのこと。

▼ Bitekha 中学校を訪問・昼食

- 保健所から歩いてすぐの中学校の入口で校長他先生方が歓迎してくれた。ブータンでも一番古い学校の 1 つで 1963 年に 20 人の生徒で開校したが、現在は寄宿生徒 243 人、通学生徒 221 人の計 464 人の生徒に、先生 24 人の規模で、広い敷地に建物が幾つも建っている。
- 寄宿生全員が一同に天井の高い食堂でランチを食べる様子を視察。男女に別れて決められた席に座り、整然とブロック毎に食事を取りに行く様子は規律正しく見ていて気持ちが良い。我々も先生方と一緒にブータン料理をご馳走になった後、先ほどの保健所の看護師さんが来て、女子生徒 30 人に子宮頸がんの予防接種を行うのを見る。看護師さんは本当に忙しい！



▼ Wanaka 幼稚園を訪問

- 首都ティンブーへの移動途中で、UNICEF が鋭意取組んでいる 3 歳～5 歳の幼児期ケアセンターの 1 つに立ち寄る。前の中学校で時間を取ってしまい、30 分遅れの到着となる。子どもたちを迎えに来たお母さんたちを暑い庭で待たせてしまった。小さな小屋のクラスの中に 28 人の子どもたちと先生 1 人、助手 1 人。月曜～金曜の 8:20～14:00 まで、クラスの壁いっぱい貼ってある数字や野菜などの名前を教えるとのこと。JCV からの鉛筆や支援者様からプレゼントを贈った。

【5 日目： 2018 年 5 月 23 日（水）】

時間	活動内容
	朝食
9:30 - 10:00	移動
10:00 - 11:30	国立病院を訪問 ワクチン接種部門などを視察
11:35 - 12:30	中央ワクチン保冷库を視察
12:35 - 14:00	保健省主催の昼食会
14:00 - 18:00	ティンブー市内を視察
	夕食、ホテル着



▼ 国立病院を訪問・ワクチン接種を視察

- ワクチン接種部門に行くと新生児を抱えたお父さんやお婆ちゃんたちが何人も待っていた。生後 24 時間以内に B 型肝炎の予防接種を打つ必要があるとのことで、出産後お母さんが休んでいる間に、赤ちゃんは B 型肝炎、BCG、経口ポリオワクチンの 3 種類の予防接種を受ける。今年ブータン全土で生まれる新生児へのこれら 3 種類のワクチンは、全て 100%JCV からの支援ですとの説明を受ける。国立病院では年間 1300 人～1500 人の子どもたちが予防接種を受けるが、病院の混雑を避けるために出張サービスで予防接種も行っているとのこと。

▼ 中央ワクチン保冷库を視察

- 国際赤十字から最近支援された冷蔵車が駐車場にとめてあり、これでパロの空港からワクチンを運搬し、その後、地方にある2ヶ所の病院に運んだ後に、そこから各地の保健所等に配布されとのこと。JCV 支援の冷蔵庫を前に、冷蔵庫のみでなく、30日間記録保存型の温度計の支援も頂いた。おかげで、温度管理を2人で出来る様になり、大変助かっているとのこと。我々もウォークイン冷蔵庫の中に入り、ワクチンがきちんと管理されていることをチェック。



▼ 保健省主催の昼食会

- 保健省医療サービス局長主催の昼食会は、伝統的なブータンレストランで行われた。保健省の関係者や地方出張から戻ったばかりのUNICEF 事務所次長他にご挨拶。局長にパロと八県での視察の模様を報告し、キャップを通じた支援につき説明すると、その様に多くの日本の人々から支援を頂いていることに心から感謝する。今後とも継続した支援をお願いしたいとの発言。
- 昼食会後は、近くの古民家の民族博物館、伝統技芸院・美術学校のほか、中国企業が作ったという山の中腹にある大仏や僧院を視察した。

【6日目：2018年5月24日（木）】

時間	活動内容
	朝食
9:00 - 9:10	移動
9:10 - 10:05	JICA 事務所を訪問
10:10 - 11:10	保健省を訪問
11:15 - 12:40	UNICEF ブータン事務所を訪問
12:45 - 13:15	ブータン保健信託基金（BHTF）を訪問
13:20 - 14:45	ブータン保健信託基金（BHTF）主催の昼食会

14:45 - 17:00	ドチュラ峠を訪問、ティンブー市内を視察
17:00 - 18:15	自由時間
18:30 - 21:00	UNICEF ブータン事務所主催の夕食会
	ホテル着



- JICA 事務所を訪問
- 山田所長より、ブータン在住日本人約100人の内、70～80人はJICA関係者（内約44人がJICAボランティア、7人が保健関係）で、日本の支援は大変評価されている。インドが一番支援している。欧米諸国はGDPの上昇に伴い支援を撤廃し、現在ブータンに事務所を持っている国は日本とオーストリアのみとのこと。
- 新枝保健担当アドバイザーから、新生児や5歳未満死亡率が高いのが問題で、また、髄膜炎が多いことが気になるとの発言でした。

▼ 保健省を訪問

- 当初、保健大臣及び保健省次官への表敬との予定であったが、両者共都合が付かなくなり、昨日昼食会を主催した局長との会合。局長から改めて、JCVからの10年間の継続した支援に心から感謝する。今後も継続して支援を行って頂きたい。色々な取り組みでJCVを支援している日本の多くの方々にくれぐれもよろしくお伝えしたいとのメッセージを頂いた。



▼ UNICEF ブータン事務所訪問

- 保健省のすぐ側にUNハウスの建物があり、その中にUNICEFを初めとする国連関係機関が全て入っている（WHOのみ保健省の建物）。UNICEF職員全員が大会議室に集合し、ブータンにおけるUNICEFの活動につき説明。教育、水と衛生、暴力・虐待からの保護等の中で、幼児期ケアセンター（幼稚園）の設置や僧院における暴力撤廃に力を入れているとのこと。
- 次長より、JCVの長年の支援のおかげでブータンはポリオや麻疹フリーになっている。自分の

ベビーも先日 JCV 支援の予防接種を受けた。心から感謝をする。2019-2023 ブータン 5 カ年計画の間も継続した支援をよろしくお願いしたいとの発言があった。

▼ ブータン保健信託基金（BHTF）訪問

▼ ブータン保健信託基金所長より、「幸福の国」ブータンでは基礎医療と基礎的教育が無償となっており、この基礎医療を継続的・安定的に確保するために本基金が 2000 年に設置された。本年 1 年間にブータンの子どもたちが必要なワクチンの約 50%を JCV が支援し、残りの約 50%をブータン政府としての本基金から負担している（この他に GAVI から IPV の支援）。JCV の支援のおかげで、子どもワクチンへの支出が抑えられ、その分を他の必須医薬品の購入に使えるので、JCV は間接的に本基金を支援していると言える。今後とも継続した支援をどうぞよろしくお願いしたいとのこと。



▼ ブータン保健信託基金（BHTF）所長主催の昼食会

▼ ブータン伝統展示センターの奥のレストランでの昼食会。ベジタリアンのワンダナさんがブータンの野菜等は全てオルガニックで農薬等を使用していないので本当に美味しいのだと自慢げに話す。確かに細長いアスパラやナスなどの形はともかく、全て味が濃く美味しい。食後、伝統展示場で障がい者が器用に細かい彫刻を彫る様子を見たり、アーチェリーを試したりした。

▼ UNICEF ブータン事務所主催夕食会

- ワンダナさんの大きな一軒家の自宅で UNICEF 事務所主催の夕食会。多くの関係者が招待され、ブータンで数少ない小児科医の 1 人で、国立病院医師の西澤和子先生（前列右から 5 人目）からもお話を聞くことが出来た。
- 食後、3 階建ての 10 室あるという家のツアーをして、庭の野菜畑やバラ園、大きな胡桃の木、3 階のバルコニーからの景色などを楽しんだ。



【7日目：2018年5月25日（金）】

時間	活動内容
	朝食、ホテルをチェックアウト
10:00 - 10:45	ダクツォ職業訓練校を訪問
11:00 - 11:20	青果市場を訪問
11:20 - 12:30	パロ市内へ移動
12:30 - 13:10	昼食
13:25	パロ空港着
15:30	パロ空港発 (✦ B3 700/ブータン・エアラインズ) カルカッタ（インド）経由
20:40	バンコク（スワンナプーム国際空港）着
22:45	バンコク（スワンナプーム国際空港）発 (✦TG682/タイ国際航空)

【8日目：2018年5月26日（土）】

時間	活動内容
6:40	東京（羽田空港）着



▼ ダクツォ職業訓練校を訪問

- 昨夜、新枝アドバイザーから、JICA ボランティアがいる障がい者職業訓練施設があることを知り、予定にはない突然の訪問となった。ボランティアの坂巻さんがすぐに出てきて、親切に施設を案内してくれた。皆で、売店の色鮮やかな織物などで出来た作品を日本へのお土産として購入した。

ブータン視察を終えて

2018年5月20日（日）から5月25日（金）までの6日間、支援者様3名とJCV職員2名の計5名でブータン視察を実施しました。

JCVは、2008年にブータンへのワクチン支援を開始し、今年で支援10周年になりました。今回の視察では、ブータンにおけるワクチン予防接種の現状を把握すると共に、JCVの10年間の支援がどのような成果を出し、評価されているかを確認することにより、ワクチン支援活動に対する支援者様のご理解を深めていただくことを目的としました。

ブータンの子どもの5歳未満児死亡率は、JCVが支援を始めた2008年には、出生1,000人あたり81人と高い状況でしたが、最新データの2016年は、同32人と改善されています（出展：UNICEF世界子供白書2010、2017）。その間、2014年にはポリオ・フリーが宣言され、2017年には麻疹の撤廃が達成されました。また、予防接種率は、ほぼ全てのワクチンで95%以上となり、予防接種拡大5カ年計画（EPI）2014-2018の目標が達成されています。他方、課題も未だ多く残っており、特に山岳地の遊牧民族の子どもたちへの予防接種の実施は大変難しい問題だとのこと。また、山岳国のブータンで、ワールドチェーンによるワクチンの運搬は大変困難なもので、UNICEFがバヌアツで試験的に実施しているドローンの活用をブータンでも出来れば良いかとチャンドランさんが話していました。

今回の視察では、西部ブータンの、首都ティンプー、パロ及びハ県を訪れました。

ハ県は、中国国境に近く軍事的にデリケートで、インド軍駐留地などもあり、他の地域に比し開発が遅れているとのこと。ハ県知事からは、今回その様なハ県をJCVが訪問したことを大変感謝されました。支援者様から、ペットボトルキャップの回収を通じた支援の取組みを説明したところ、「その様に多くの日本の方々が関わって、少しずつ集めた募金支援だと知り、心から感動した。お金ではなく、人と人との関係こそが本当に大切だ。日本の多くの方々に、皆さまのおかげでブータンの子どもたちが元気ですとお伝え下さい」とのメッセージを頂きました。また、「障がい者の作業場でキャップ回収等を行うことにも感心し、ブータンでは、障がい者をdisabled personではなく、differently abled(異なる形で出来る)と言う」とのこと。GNH（国民総幸福量）を掲げる「幸せの国」ブータンでは「誰一人として取り残さない、誰をも置き去りにしない」精神が息づいているのです。

どの訪問先でも、JCVの継続したワクチン支援に対する感謝のことばと、支援を継続していただきたいとの要請がありました。今年ブータン全土で生まれる新生児へのB型肝炎、BCG、経口ポリオワクチンの3種類のワクチン全てがJCVからの支援というインパクトのある支援が、評価されているのです。

ブータンに対し10年間継続してワクチン支援を行うことができたのは、日本の支援者の皆さまからのご寄付のお陰です。ブータンの人々からの心からの感謝の気持ちを皆さまにお伝えしたいと思います。JCVは、今後とも、ブータンの子どもたちに皆さまからのワクチンの贈り物を届けて行きたいと思えます。今後とも引き続きのご支援を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JCV 事務局長 伊藤光子

